



理学部「日本水産学会秋季大会高校生ポスター発表」

9月26日(木)、理学部が京都大学農学部で行われた「日本水産学会秋季大会高校生ポスター発表」に参加しました。午前中は一般参加している方の口頭発表を聞き、高校では聞くことのできないような魚類についての研究を知ることができました。午後から高校生ポスター発表が行われ、様々な分野で魚類研究を行う高校生が大勢集まりました。全参加者が熱意を持って研究内容を発表しており、魚類研究の専門家の人たちに意見や研究内容に関する指摘をいただくことができました。また、自分たちと同じようにワンドに関する研究を行っている高校生や先生と意見交流をしました。今回のポスター発表の場を通じて、探究活動をより深めるためのヒントを得ることができました。加えて、部活動だけでは知り得ない幅広い知識を得ることで、研究における多角的な視点の大切さを実感することができました。とても有意義な時間を過ごすことができました。



第68回日本学生科学賞（和歌山県審査）にて大健闘！

10月8日(火)、「第68回日本学生科学賞」の和歌山県審査が行われ、本校生徒の3つの研究が受賞し、うち2つが中央予備審査(全国予備審査)へと進むことが決定しました。3つの研究は以下のとおりです。

- ① **県知事賞「紀ノ川下流のワンドが魚類にもたらすものとは」**
3D伊藤侑誠, 3F山木大馳, 3F脇本総志, 3G楠本廉, 3G新谷翔汰, 2H木村俊介, 2F井口颯来
- ② **県議会議長賞「酵素を用いたカゼインプラスチックの生分解性の向上」**
3F三好莉央奈, 3G中村周音
- ③ **読売新聞社賞「ザリガニから生分解性プラスチックを作る」**
3F山木大馳, 3G落合優介, 3G中谷廉, 3G花谷賢志

2024年10月17日 読売新聞

向陽高7人研究 県知事賞
学生科学賞 県審査

第68回日本学生科学賞(読売新聞社主催、旭化成協賛)の県審査が、和歌山市の読売新聞和歌山支局で行われ、県立向陽高の7人が取り組んだ研究「紀ノ川下流のワンドが魚類にもたらすものとは」が最高賞の県知事賞に輝いた。

ワンドは川や海の縁にあり、水がよどんでいる所を指す。7人は、紀ノ川のワンドが魚類にもたらすものとは「最高賞の県知事賞に輝いた。」

また県議会議長賞は、同高の2人による「酵素を用いたカゼインプラスチック」、県教育委員会賞には、県立日高高の3人が研究した「寒天プラスチックの実用化に向けて」に決まった。3作品は11月16、17日に行われる中央予備審査に進む。

このほか読売新聞社賞も決まり、向陽高の4人が取り組んだ「ザリガニから生分解性プラスチックを作る」が選ばれた。

県審査は8日に開催。和歌山大教育学部の古賀庸憲教授、県教委県立学校教育課の崎山智昭指導主事、県教育センター学びの丘の後藤真吾指導主事が審査員を務めた。

生徒たちの研究成果を確認する審査員(和歌山市で)